

O G A S A W A R A

穏やかな 時の 風景をつくる

こだわりの9項目

小笠原まちなみ景観ガイドライン

平成17年12月 小笠原村



OGASAWARA

穏やかな時の風景をつくる

こだわりの9項目

小笠原まちなみ景観ガイドライン

平成17年12月

小笠原村





穏やかな時の風景をつくる こだわりの9項目

小笠原まちなみ景観ガイドライン

目次

ガイドライン概要

1. 現在の街並みのままでよいのでしょうか？	3
2. 小笠原まちなみ景観ガイドラインのねらいと位置づけ	3
3. ガイドラインの構成と使い方	3

穏やかな時の風景をつくる	4
--------------	---

穏やかな時の風景をつくる ～こだわりの9項目～

こだわり①：生命の楽園である小笠原の自然に溶け込む街並みにする	6
こだわり②：小笠原の緑をまちなかに引き込む	7
こだわり③：高温多湿の気候・風土と共生していく	9
こだわり④：南の島らしい演出を心がけていく	10
こだわり⑤：日々の暮らしのシーンを豊かに演出する	12
こだわり⑥：道行く人たちが楽しめる工夫を凝らす	14
こだわり⑦：表の空間と裏の空間を意識して使い分ける	16
こだわり⑧：小笠原の特殊な歴史を感じられる要素を大切にしてい	17
こだわり⑨：入港・出港にあわせた演出とする	18

穏やかな時の風景をつくる ～こだわりのシーン～ ～まちなかの営み～

こだわりのscene①：落ち着いた木陰でのシーン	20
こだわりのscene②：屋外での賑わい・憩いのシーンその1	20
こだわりのscene③：屋外での賑わい・憩いのシーンその2	20
こだわりのscene④：暮らしと風景の関わり	21
こだわりのscene⑤：まちのにぎわいのシーン	21
まちなかの営み①：まちのダイニングスペースー飲食施設での取り組みー	22
まちなかの営み②：まちのショーケースー物販・サービス施設での取り組みー	22
まちなかの営み③：まちのゲストルームー宿泊施設での取り組みー	22
まちなかの営み④：それぞれのリビングルームー住宅施設での取り組み（戸建）ー	23
まちなかの営み⑤：それぞれのリビングルームー住宅施設での取り組み（共同住宅）ー	23

ガイドラインの概要

1 現在の街並みのままでよいのでしょうか？

戦前の小笠原はタマナ並木に代表される南洋の樹木に包まれた街並みでした。また、米軍の統治時代は芝生広場と低層の木造住宅といった当時の日本では考えられない独自の街並みを形成していました。

この両者の特徴は異なりますが、南の島というイメージに合致した特色のある街並み景観であったと思います。しかし、返還後の人口増加に伴い、特に中心地である西町・東町地区は敷地の細分化によって建物の建詰まりが起きてしまい、以前のような緑豊かで開放的な街並みとは言い難い状況

になっています。

また、シロアリなどの問題から木造の建物が敬遠され、建設コストの安い軽量鉄骨のプレハブ建物が街中に増加するなど、日本のどこにでもある街並みへと向かっている可能性すらあります。現在でも、景観に配慮しようと努力をされている建物も点在していますが、統一した指標のないまま進められているため、地区全体としては雑然とした印象を与える街並み景観と受け止められています。

2 小笠原まちなみ景観ガイドラインのねらいと位置づけ

こうした西町・東町地区の街並み景観の現状にあって、まずは一刻も早く、つくり・守るべき「小笠原の風景イメージ」を明確にして、願わくば住民の方々全てが共有できるような取り組みが必要となっています。

今回の「小笠原まちなみ景観ガイドライン」は、住民の方々が広く共有できる「小笠原らしい景観・街並み」とはどういった

ものなのかを整理するとともに、建物などをつくる場合に、景観上特に配慮していただきたい点についての手引書としてまとめたものです。

今後、このガイドラインが多くの方々の目に触れ、具体的な街並み景観への取り組みへとつながっていくことを期待しています。

3 ガイドラインの構成と使い方

「小笠原まちなみ景観ガイドライン」は3つの項目によって構成されています。

〈こだわりの9項目〉

小笠原の街並み景観を考える上で、特に意識をしていただきたい要素について「自然に関係する要素(4項目)」「人に関係する要素(3項目)」「歴史・文化・地理に関係する要素(2項目)」に分類して整理をしています。

これらの項目は、住民の方々との話し合いの中からでてきたキーワードを整理したものです。また、各こだわりはいくつかの単元に別れており、細目に関してはワークショップでの検討結果を反映したものとなっています。

なお、建物の高さや色、看板の大きさや素材など、統一的なルールをつくるのかについては、今後、その手法も含めてさらに検討を行っていく予定です。

〈こだわりのシーン〉

小笠原の街並みで、特に実現して欲しいと考えているまちなかでの活動シーンを提案しています。

これらのシーンは、住民の方々との話し

合いの中ででてきた風景イメージであり、「こだわり」の中で述べられている項目が複合してつくりだされていることを理解していただきたいと思います。

そして、街並み景観は建物だけで実現できるわけではなく、そこに暮らす方々の活動と密接なつながりがあり、活動を誘発するような施設のあり方を考えるキッカケになることを期待しています。

〈まちなかの営み〉

ここでは、「飲食施設」「物販・サービス施設」「宿泊施設」「住宅」「共同住宅」という5つの施設分類ごとに、特に配慮して欲しい取り組み事項を整理しています。

この内容については、建替え時に限らず、現状の施設の見直しを行う際の参考にもしていただきたいと思います。

「こだわり」に書かれている内容は、大規模な整備が必要な項目ばかりではなく、小さな取り組みの積み重ねによる雰囲気づくりや演出にも力点が置かれています。「これならできそう」という項目の一つでも多く見つけだし、実践していただけることを期待しています。



穏やかな時の風景をつくる

○自然に関する要素

こだわり①：生命の楽園である小笠原の自然に溶け込む街並みにする

こだわり②：小笠原の緑をまちなかに引き込む

こだわり③：高温多湿の気候・風土と共生していく

こだわり④：南の島らしい演出を心がけていく

小笠原は長きに渡り、人の手が入らない完全な自然が残っていた。そして、この自然は姿を変えつつも、他の場所では感じることの出来ない風景を現在も多くの人たちに伝えている。

このような自然環境は小笠原の象徴であり、悠久の時の流れにより生みだされた自然環境との関係を大切に考える必要がある。

○人に関する要素

こだわり⑤：日々の暮らしのシーンを豊かに演出する

こだわり⑥：道行く人たちが楽しめる工夫を凝らす

こだわり⑦：表の空間と裏の空間を意識して使い分ける

毎年、小笠原の魅力に引き付けられ多くの人に移り住んでいる。その理由として、本土にはない小笠原独自の穏やかな時の流れが人を呼び寄せるのではないだろうか。

まちのあちらこちらに、この穏やかな時の流れを感じさせる空間を忍ばせていくことが、小笠原らしい街並み景観をつくりだしていく重要な要素である。

○歴史・文化・地理に関する要素

こだわり⑧：小笠原の特殊な歴史を感じられる要素を大切にしていく

こだわり⑨：入港・出港にあわせた演出とする

小笠原は、本土とは違う独自の歴史を歩んできた。その独自の歴史によって刻まれた様々な風景が、今も多くの人々の心の奥に残っている。また、本土から1,000km離れていることにより生みだされる生活のサイクルも小笠原独特のものである。

このように、独自の歴史・文化・地理によって生みだされる要素を大切にしながら小笠原らしい街並み景観を考えていくことが大切な視点である。

穏やかな 時の 風景をつくる

こだわりの9項目



こだわり①

生命の楽園である小笠原の自然に溶け込む街並みにする

西町・東町の街並みのすぐ後ろには植物が生い茂る緑の三日月山がせまり、その上に広がる透き通った青い空が「小笠原らしさ」を印象づけている。この街並みと緑と青との連続性を大切にしていきたい。

また、恵まれた自然環境の中で、人と自然が共生して住まい続けていくためにも、自然の中に溶け込み、風景と一体となった街並みを目指していきたい。

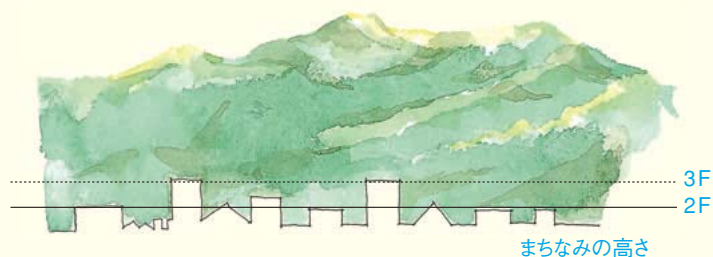
背景の山や空を引き立てるような街並みとする

- 考え方……山や空への眺望を確保するために、建物高さを抑えることにより、小笠原の自然風景に溶け込む街並みになっていきます。

●配慮イメージ

■背景の山との関わりを大切にするための工夫 —その1—

現在は2〜3階建ての建物が中心の街並みであり、これ以上高い建物を建てないようにすることが背景の山や空との関係では大切です。



■背景の山との関わりを大切にするための工夫 —その2—

建物の上部をセットバックさせることにより、背景に見える山々が視界に入りやすくなります。



セットバックなし



セットバックした場合

小笠原の樹木や草花と調和した色使いとする

- 考え方……小笠原の色鮮やかな植物が映えるような建物の色彩にすることにより、まちなかでも小笠原の自然が感じやすくなります。(白い壁など)



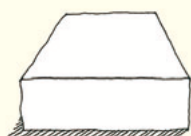
山や海からの眺望にも配慮する

- 考え方……山や海からの眺めでは、建物のボリューム感や屋根の大きさなどに視線が集まりやすいため、建物を上手く分割したり、大屋根を避けることにより、過度に視線を集めないことができます。

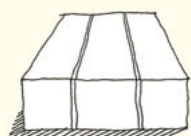


●配慮イメージ

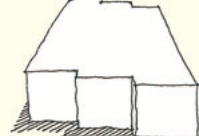
■建物を分節して、ボリューム感を軽減する (山からの眺めへの配慮)



大きさを感じてしまう

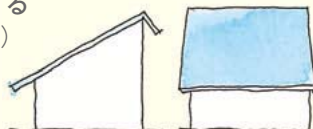


分割する

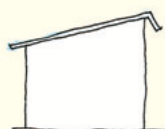


分割して雁行させる

■大きすぎない屋根にする (海からの眺めへの配慮)



屋根勾配をつけると、屋根が見える面積が大きくなります



勾配を緩やかにすることで、屋根が目に入る面積を減らすことができます



こだわり②

小笠原の緑をまちなかに引き込む

街並みのあちこちに色彩豊かな南洋の樹木や草花が、ある場所では生い茂り、ある場所では密やかに咲き誇り、小笠原を感じさせてくれる。

小さなスペースでも人の手によって積極的に緑を増やし、まちなかにいても小笠原の緑を感じられる風景をつくりだしていきたい。

周囲の緑とのつながりを大切にする

- 考え方……街路樹や隣地の樹木等との関係を重視した植栽を行うことにより、まとまりのある緑地空間をつくりだすことができます。

●配慮イメージ

■まちに点在している緑をつなげていく

街区単位で緑が点在している状況を、途中の緑を増やしていくことにより、緑のネットワークが形成されます。



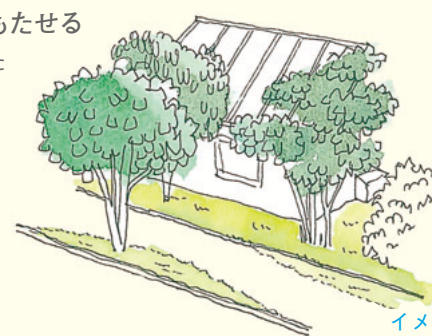
緑が点在している状況のイメージ



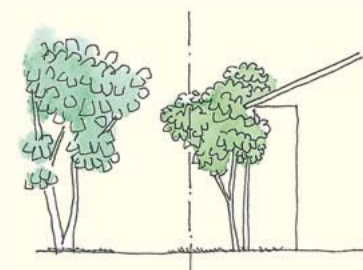
緑のネットワークが形成されたイメージ

■公共の緑とまとまりをもたせる

公共の緑とセットになった緑地を増やしていく



イメージ



断面

小笠原らしい植物を増やしていく

- 考え方……固有種や在来種など、小笠原を代表するような植物をまちなかに増やすことにより、本土とは異なる小笠原らしい風景となっていきます。

●配慮例

タマナやムニンデイゴ、タコノキなど、小笠原らしい樹木を民間および公共が協力しながら増やしていくことも大切な取り組みです。



タマナ



ムニンデイゴ



タコノキ



ココヤシ



ブーゲンビリア



ホウオウボク

こだわり② 小笠原の緑をまちなかに引き込む

緑や花を増やすための小さな工夫をしていく

●考え方……フラワーポットを置くなどの小さな取り組みを積み重ねることから、潤いの感じられる街並みをつくりだせます。



●配慮イメージ

■緑を感じたいとき

道路と建物のちょっとしたスペースでも緑化することは可能です。プランターをいくつかまとめて緑化のスペースをつくったり、トレリスなどを用いて、壁面緑化することで緑の演出ができます。



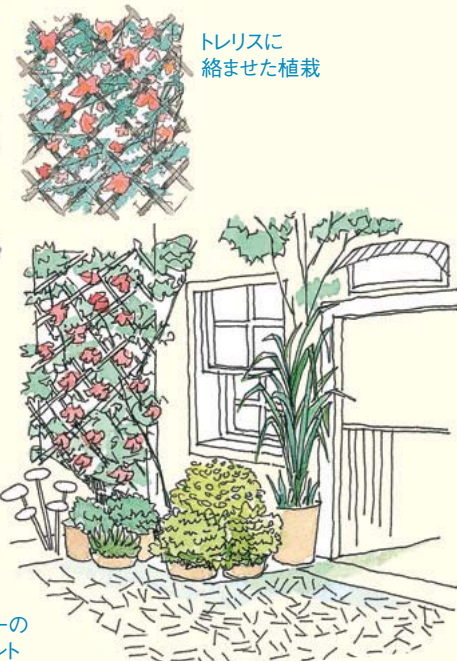
様々な形のプランター

■アクセントとしての緑で演出する

建物の角や敷地の境界部分、アプローチ部分などのアクセント部分に緑を用いたり、珊瑚ダストなどの素材を用いることで、自然との調和を演出できます。



コーナーのアクセント



トレリスに絡ませた植栽

緑や花によって温かみのある演出をおこなう

●考え方……木や花を上手に活用することにより、街並みの演出を行うことができます。

●配慮イメージ

■足元のプランター利用

足元や建物のコーナーにプランターを置くことにより、空間を緩やかに区切ることができます。



足元部分での植栽

入り口部分の植栽

■敷地の奥行きを見せる

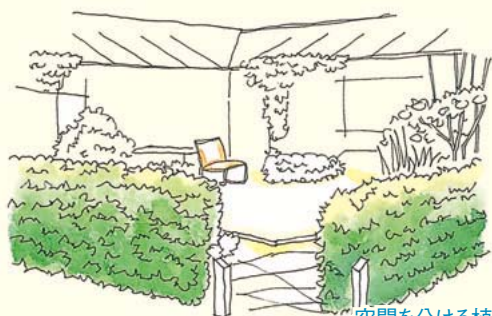
隣地との境界部分のスペースも上手に活用して緑化できます。



奥の植栽に視線をうながす

■空間の壁

植栽を間仕切り壁として使うこともできます。



空間を分ける植栽

■空間を植栽で仕切る

緑の植栽は、屋外空間に限らず室内空間にも潤いを与える効果があります。



テーブル間を緩やかに区別ける工夫

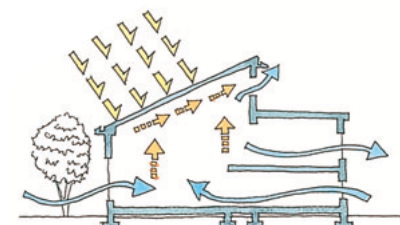
こだわり③ 高温多湿の気候・風土と共生していく

亜熱帯地域特有の高温多湿な気候は、室内に熱や湿気がたまりやすい。また、強い日差しがほぼ真上から降り注ぎ、日差しを遮る工夫や住まい方が求められる。

小笠原独自の気候・風土に折り合いをつけた住まい方の工夫は、個々の建物に表情を持たせる。それらを積み重ね「小笠原らしい」街並みをつくりだしていきたい。

快適に生活するために穏やかな風を取り込む

●考え方……建物に風を取り込むことは、湿気を抑えたり、建物内部に溜まる熱を逃す効果があり、積極的な配慮が必要です。



●配慮イメージ

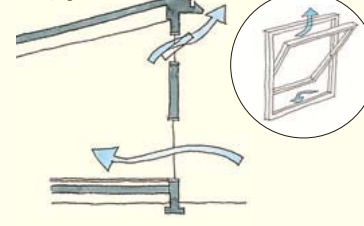
■空地部分を緑化する

屋外空間をできる限り緑化することにより、まちなかに涼しい風が行き渡ります。



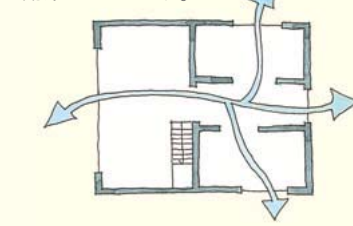
■熱を逃がす

風を室内に取り込むと、室内にこもった熱を外に追いだす効果があります。



■湿気を溜め込まない

風通しをよくすることで建物内の空気が循環し、室内の湿度を下げる効果があります。



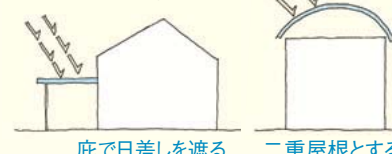
強い日差しと上手につきあう

●考え方……強い日差しと上手につきあっていくことは、亜熱帯の小笠原で生活するうえで大変重要なことです。

●配慮イメージ

■直射日光を遮る

建物内部に熱が侵入しないようにすることは、快適に暮らすために大切な取り組みです。



庇で日差しを遮る

二重屋根とする



樹木で遮る

■日陰を上手く活用する

日射を遮る庇などがつくりだす日陰の空間は、休憩スペースなど屋外での活動を考えるうえで非常に大切です。



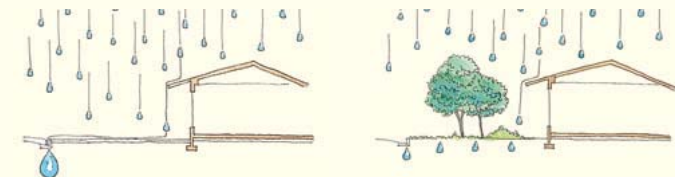
強すぎる雨への対応を図る

●考え方……台風時に吹き付けられる強い風雨やスコールと上手く付き合うことは、小笠原で生活するうえで配慮が必要なポイントです。

●配慮イメージ

■地面を緑化する

地面を緑化することによって、雨水を地中に浸透させることができます。





こだわり④ 南の島らしい演出を心がけていく

小笠原に対して、多くの人は漠然とした南の島のイメージを持っているが、それぞれに千差万別である。

小笠原ならではの素材や営みなどをうまく活かし、小笠原ならではの南の島らしさを演出していきたい。

小笠原に関係する自然要素をデザインに活かしていく

●考え方……小笠原に関係する様々な自然要素を、看板や装飾などのデザインに活用することにより、小笠原らしさを演出することができます。

●配慮イメージ

■自然要素を活かした特徴的なデザインをする

流木を活用したり、イルカ・クジラなどを使用した看板などで小笠原らしさを演出できます。



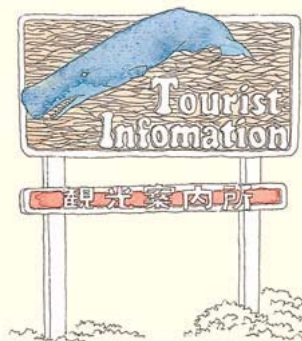
■小笠原らしい素材を上手く活用する

人工的なものができるかぎり見せない、使わないということが小笠原らしさを演出していきます。



■デザイン要素の大きさを工夫する

要素の大きさによって、看板の印象が変わります。



■小笠原らしい職種をPRする

シーカヤックのオールなどを演出素材として活用すれば、ただでさえお店のイメージが伝わります。



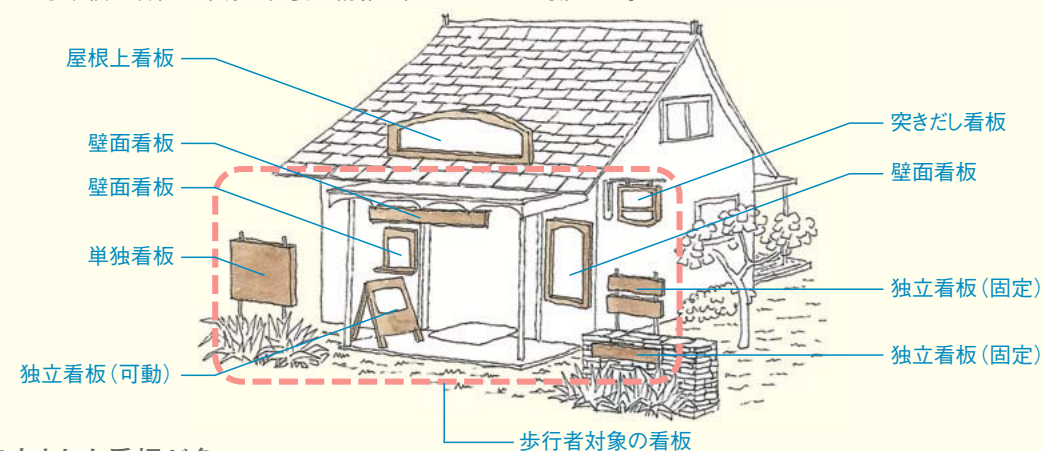
南の島らしい雰囲気づくりを行っていく

●考え方……様々な自然要素を使った看板は南の島らしい演出をするうえで不可欠なものです。小笠原のまちの特徴にあわせた看板としていくことが大切です。

●配慮イメージ

■歩行者を対象にする

小笠原の場合、自動車向けの大規模な看板を設ける必要はなく、歩行者（観光客）を対象とした目線より下に設置されている小規模の看板で十分に必要な情報を伝えることが可能です。



■工夫された看板が多い

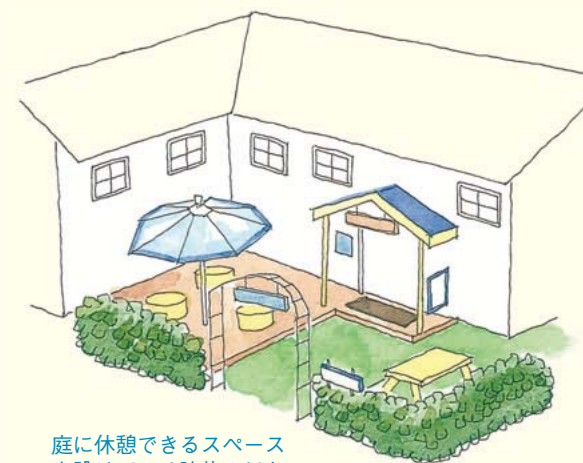
現在のまちなかには、小笠原らしいデザインや素材にこだわった看板が多くあります。このような取り組みをさらに広げていくことは、街並みの演出を考えるうえで大切なことです。



●ポイント

■建物の雰囲気で建物の用途を伝える

小笠原の場合、業種ごとに建物のつくり方に特徴があります。そういった雰囲気をつくりだしていきことも、小笠原らしさを考えるうえでは重要な取り組みです。



庭に休憩できるスペースを設けている建物のほとんどは宿泊施設です



こだわり⑤ 日々の暮らしのシーンを豊かに演出する

小笠原が人を引きつける魅力とは、行き着くところ、ここで暮らしている人たちの暮らしぶりや、誰でも受け入れる気質にある。

小笠原に暮らす人たちの営みがにじみあふれる空間や瞬間をまちなかに作りだしていきたい。

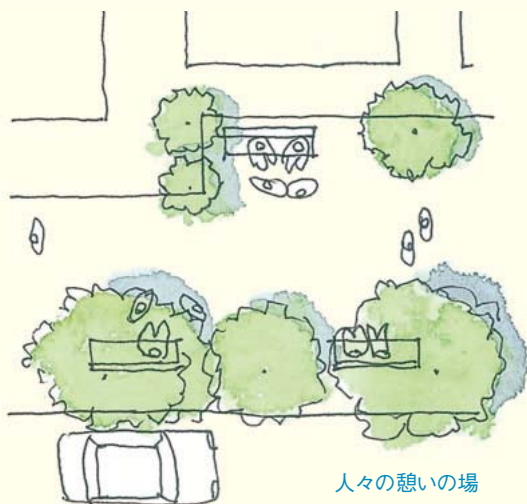
人々が憩い・過ごせる場所をつくりだす

- 考え方……強い日射しを樹木のパラソルで遮ることにより、まちなかに木陰がうまれます。その木陰を休憩スペースとして上手に使うことにより、まちなかに憩いの空間がつけられ、人々の交流の場として利用できます。また、緩やかに囲われた空間にすると、落ち着いて過ごすことができます。

●配慮イメージ

■木陰に休憩スペースをつくる

まちなかの木陰に休憩スペースをつくることにより、人々が憩い・過ごせるキッカケの場所づくりが行えます。



人々の憩いの場



木陰のスペース

■緩やかに囲われた空間をつくる

落ち着いた空間にするためには、植栽などで緩やかに囲ってあげることが大切です。



植栽の囲み空間

■歩行者との視線をずらす

デッキのうえの休憩スペースは、通りを行き交う歩行者との視線をずらすことができます。



高さの関係

海を眺める落ち着いた場所をつくっていく

- 考え方……海が見える場所に休憩スペースやレストランをつくることは、小笠原らしい空間を演出する非常に重要な取り組みです。



●配慮イメージ

■海を眺められるスペースを大切にする

民地部分から海を眺められる場所が少ないため、そのような場所の建物ではデッキや屋上などから積極的に海を眺められるスペースを確保しましょう。



デッキなどをつくる



ベランダをつくる

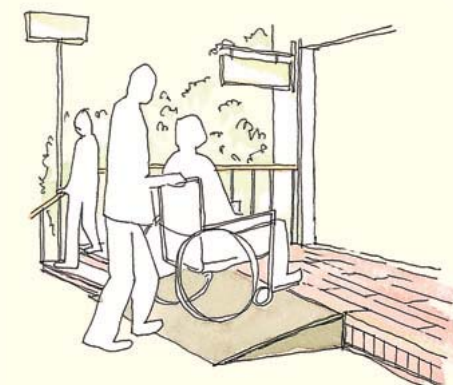
誰もが安心して生活できる空間をつくっていく

- 考え方……子供からお年寄りまで、安心して暮らしていくためには、ユニバーサルデザインやバリアフリーといった視点での整備に気を配る必要があります。

●配慮イメージ

■空間の安全性を大切にする

車いすや、お年寄り、子どもであっても、安心して受け入れられる空間をつくるのが大切です。





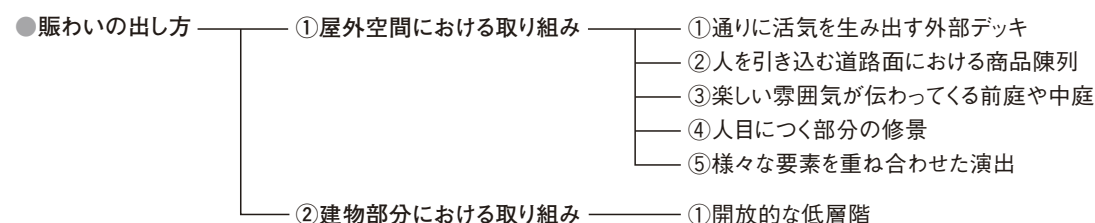
こだわり⑥ 道行く人たちが楽しめる工夫を凝らす

小笠原を訪れる人たちにとって、民宿や飲食店、お土産屋などが営まれているまちなかをそぞろ歩き、まちなかを楽しむことが一つの魅力となっている。

道行く人たちが、小笠原での営みを感じ、賑わいを感じられる雰囲気をつくりだしていきたい。

通りから人を呼び込むような賑わいの演出をおこなう

- 考え方……販売している商品が通りから見えたり、食事をしている人たちの語らいの声が聞こえてくることは、まちに賑わいを与え、そのお店に入りたいと思わせるような取り組みです。



●配慮イメージ

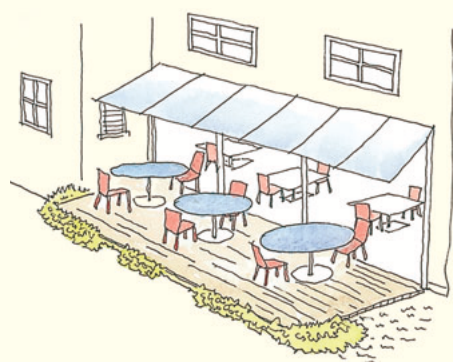
①屋外空間における取り組み

■通りに活気を生み出す外部デッキ

通りに面したデッキ上の飲食スペースは、南の島の外気に触れながら食事をしたいと思わせる効果があります。



通りとの関係



北面の場合

建物の北側に道路がある場合は、建物の日陰が落ちるため屋外空間が活用しやすいというメリットがあります。

■人を引き込む商品陳列

屋外空間での商品陳列は、店内へ人を引き込む効果があります。



店前の演出

■楽しい雰囲気が伝わってくる前庭や中庭

宿泊施設などの前庭や中庭に休憩スペースをつくることで、施設の雰囲気が通りにしみだし、街に賑わいを与える効果があります。



雰囲気の伝わる中庭

■人目につく部分の修景を行う

通りに面した部分を積極的に装飾することによって、小笠原ならではの賑やかな雰囲気をつくりだせます。



素材感を活かした工夫の例

■様々な要素と重ねあわせる

看板や植栽、デッキなど様々な要素を組み合わせることにより、賑わいをつくりだすことができます。



植栽を活かした工夫の例

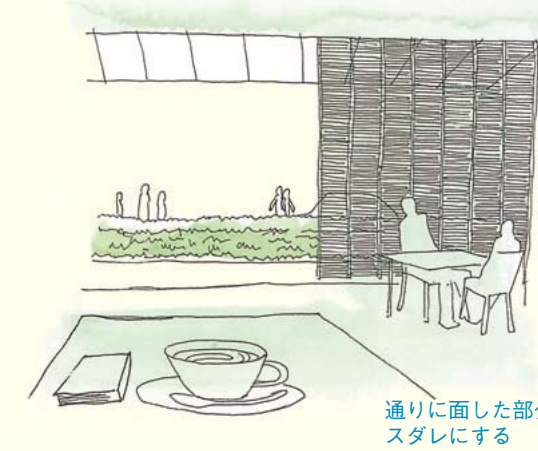
②建物部分における取り組み

■開放的な低層階

通りに面した低層階はできるかぎり開放的なものにして建物の内部を見せるようにすると、お店の様子が外に伝わり、歩いている人を建物に引き込む効果があります。



通りに面した部分をガラスにする



通りに面した部分をスタレにする

小笠原での営みを感じられる空間をつくりだす



賑わいを感じさせる取り組みの中で最も大切なことは、小笠原らしい営みを暮らしの中に取り込んでいくことです。島で採れた魚がまちなかで売られていたり、季節の果物や野菜を販売する風景は、小笠原らしい活動シーンとして捉えられるでしょう。

このような取り組みの蓄積の先に、小笠原らしい雰囲気に満ちあふれた街並み景観があると考えています。



こだわり⑦

表の空間と裏の空間を意識して使い分ける

小笠原では活用できる土地に限りがあるため、資材置場や駐車場などが仕方なく通りに面しておかれている。

裏に隠すべき要素は裏に隠し、隠し切れないものはうまくなじむような工夫をし、街並みへの気遣いの気持ちを大切にしていきたい。

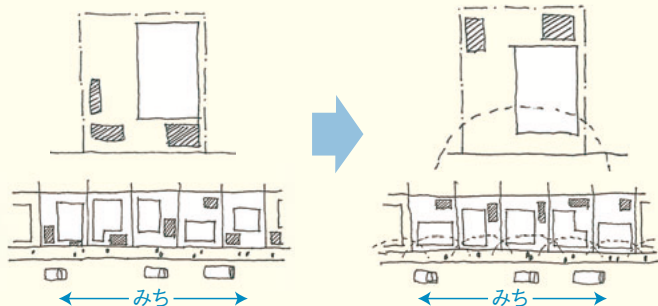
道路面に不必要な生活空間が滲みださないようにする

- 考え方……不必要なものを裏にしまうことは、観光地としての雰囲気を考える上でぜひ取り組んでいただきたい活動です。

●配慮イメージ

■不必要なものを裏にしまう

観光地のイメージにあわない不必要なものは、できるかぎり裏に回して、通りに面した部分は様々な演出を行う場所として確保する必要があります。



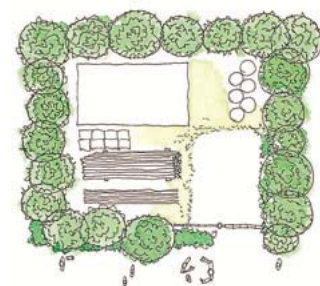
■裏の生活空間が見えないようにする

不要物を収納をしたうえで表と裏とを遮る工夫を行い、通りから見えないような配慮も必要かもしれません。



観光地にふさわしくないものは通りから見えないように覆い隠す

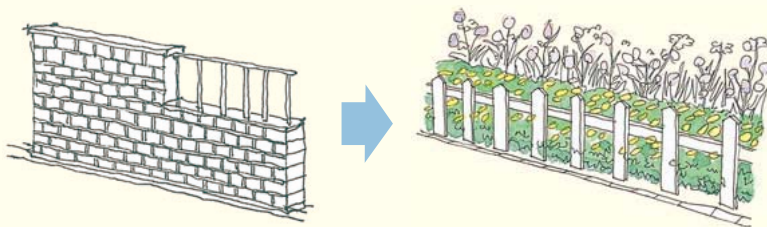
- 考え方……不必要なものをどうしても裏に回せない場合は、植栽や柵などで覆い隠し、できる限り通りを歩く人から見えないような取り組みが必要です。



●配慮イメージ

■できるかぎり樹木で隠す

緑を引き込んだ小笠原らしい街並みをつくりだすためにも、ブロック塀などは使わずに、できるだけ樹木の植栽を使って隠します。



■収納場所を確保する

大きくないものであれば、収納スペースで保管する方法もあります。



■駐車場の舗装を工夫する

アスファルト舗装や砂利舗装よりも緑化ブロックなどを活用したほうが潤いのある雰囲気をくれます。



こだわり⑧

小笠原の特殊な歴史を感じられる要素を大切にしてい

小笠原の原風景は、戦前のタマナの防風林に包まれたビロウ葺きの家並みや、米軍統治時代の芝生に低層の建物が点在する開放感に満ちた風景など、時の移ろいととも異なっている。

このような人々の想いを現代に調和させ、古き良き小笠原をいつまでも感じさせていきたい。

様々な歴史を感じさせる要素をまちなかに点在させる

- 考え方……小笠原の特殊な歴史を踏まえた景観要素を大切にすることは、観光客には小笠原らしさを感じさせ、住民にとっては原風景を守ることにつながっていきます。しかし、現実的には守りきれない要素もあり、何を残していくことができるかを考えていく必要があります。

●配慮イメージ

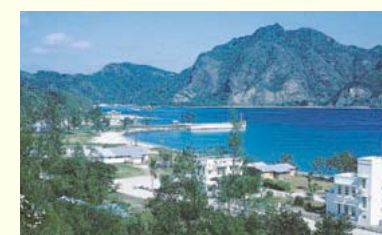
■代表的な戦前の街並みイメージ

- 緑豊かな街並み
- 親密な自然との関係



■代表的な統治時代の街並みイメージ

- 開放感のある街並み
- 異文化



しかし、現在のように建物が建ち並んだ街並みを写真の風景に戻すことはできません



それでは、どのような要素であれば現在の街並みの中に残していけるのでしょうか？

<残していくことができる戦前のイメージ>

自然に関係する景観要素を守り増やしていくことが、戦前の風景を意識させる取り組みです。



緑豊かな街並みのイメージ



シュロの葉葺きの素材感



大きな木陰ができる街路樹



島にある自然素材を活かした生活

<残していくことができる米軍統治時代のイメージ>

開放感を大切にしたい景観要素を守り増やしていくことが、米軍統治時代の風景を意識させる取り組みです。



明るく開放的な雰囲気を大切に



珊瑚ロード



異国的な雰囲気のまち



こだわり⑨

入港・出港にあわせた演出とする

おがさわら丸の入港直後は、船を待ち望んでいた多くの住民や観光客があふれ、賑わいの風景をつくりだしている。また、入出港時における歓送迎の風景は、小笠原に暮らす人たちのもてなしの心が凝縮した風景である。

入港・出港にあわせて変化するまちなかの雰囲気をも、より心に刻まれるものとしていきたい。

入港直後の賑わいを積極的に演出する

- 考え方……入港直後は、各種生活物資が運び込まれ、街の商店が人であふれかえっています。このような風景は小笠原ならではの生活のワンシーンであり、島全体で積極的に演出するような流れをつくりだしていく必要があると考えています。

出港日に街中にあふれる人々が楽しめる工夫をする

- 考え方……出港の際の船客待合所において、ほとんどの観光客が感動する盛大な見送りが行われています。また、昨年度からは「船待屋」がオープンするなどの取り組みも行われています。このような取り組みを街全体として行えば、更なる賑わいがうまれるのではないかと考えています。



穏やかな
時の
風景をつくる

こだわりのシーン
まちなかの営み

こだわりのシーン

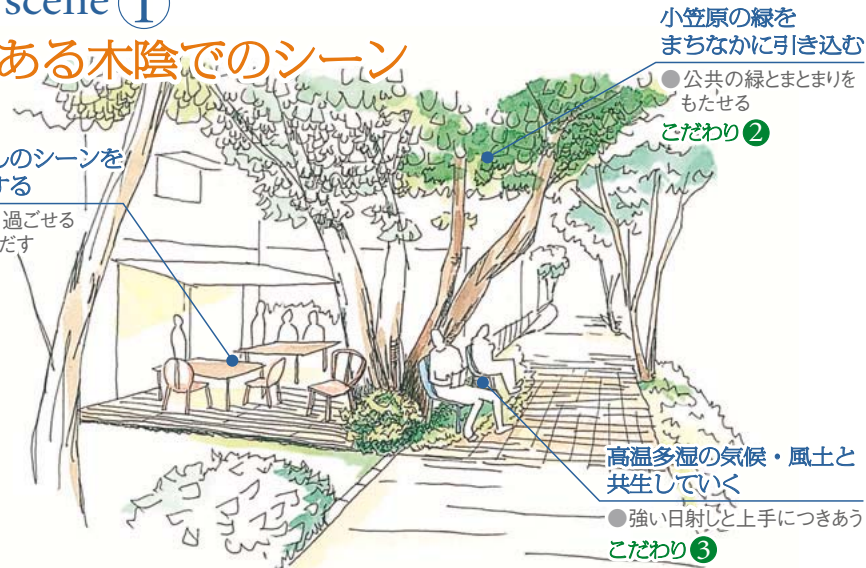


こだわりのscene ① 落ち着いた木陰でのシーン

日々の暮らしのシーンを豊かに演出する

- 人々が憩い・過ごせる場所をつくりだす

こだわり⑤

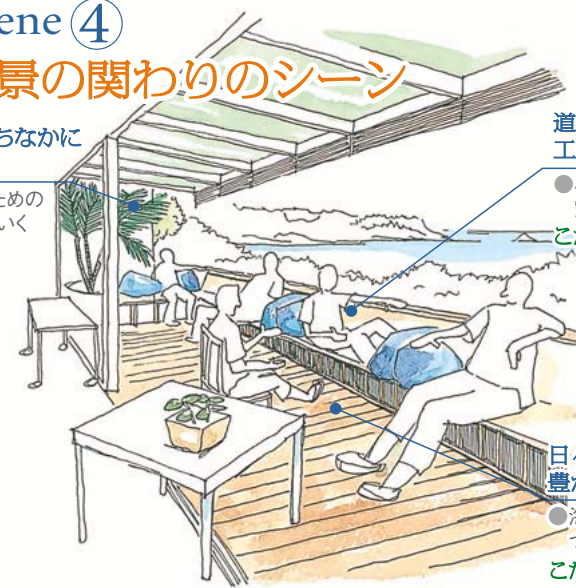


こだわりのscene ④ 暮らしと風景の関わり合いのシーン

小笠原の緑をまちなかに引き込む

- 緑や花を増やすための小さな工夫をしていく

こだわり②

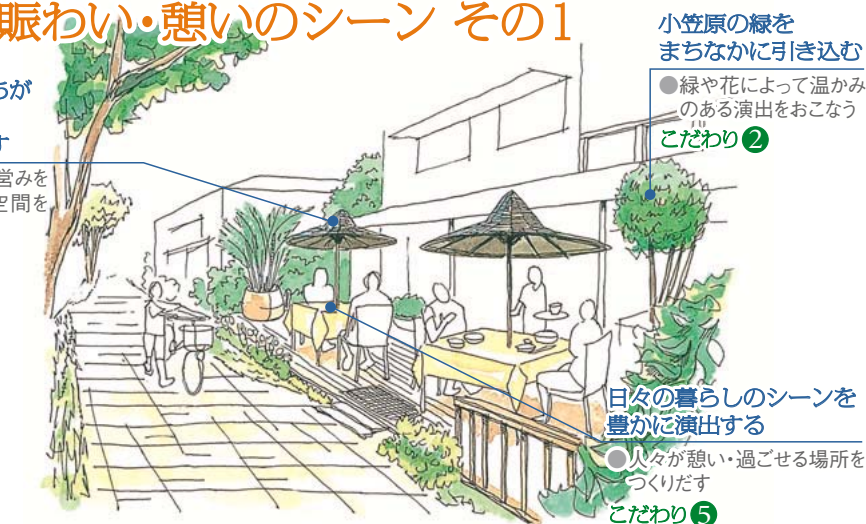


こだわりのscene ② 屋外での賑わい・憩いのシーン その1

道行く人たちが楽しめる工夫を凝らす

- 小笠原での営みを感じられる空間をつくりだす

こだわり⑥

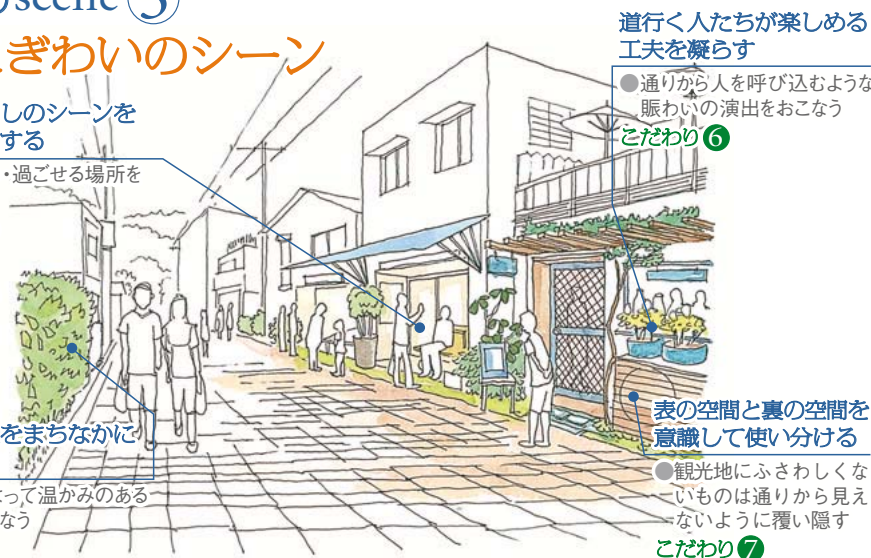


こだわりのscene ⑤ まちなかにぎわいのシーン

日々の暮らしのシーンを豊かに演出する

- 人々が憩い・過ごせる場所をつくりだす

こだわり⑤

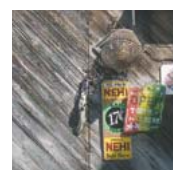
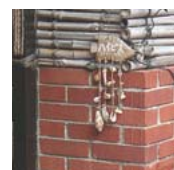
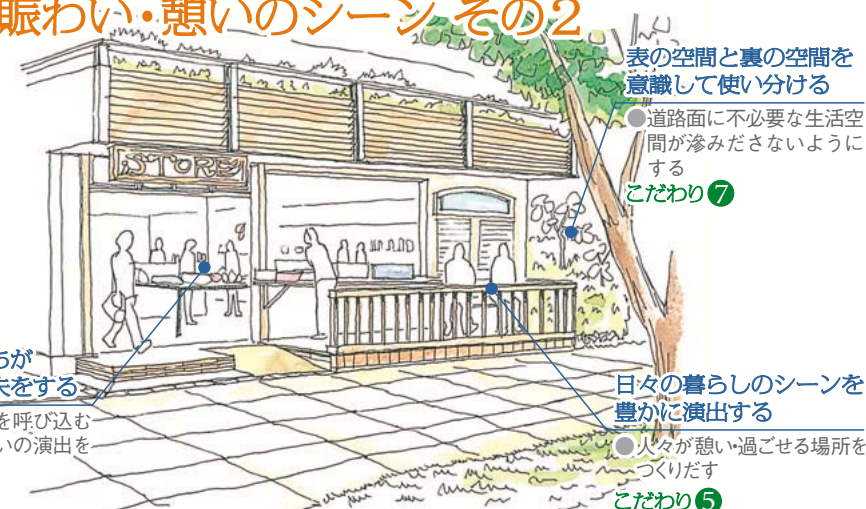


こだわりのscene ③ 屋外での賑わい・憩いのシーン その2

道行く人たちが楽しめる工夫をする

- 通りから人を呼び込むような賑わいの演出をおこなう

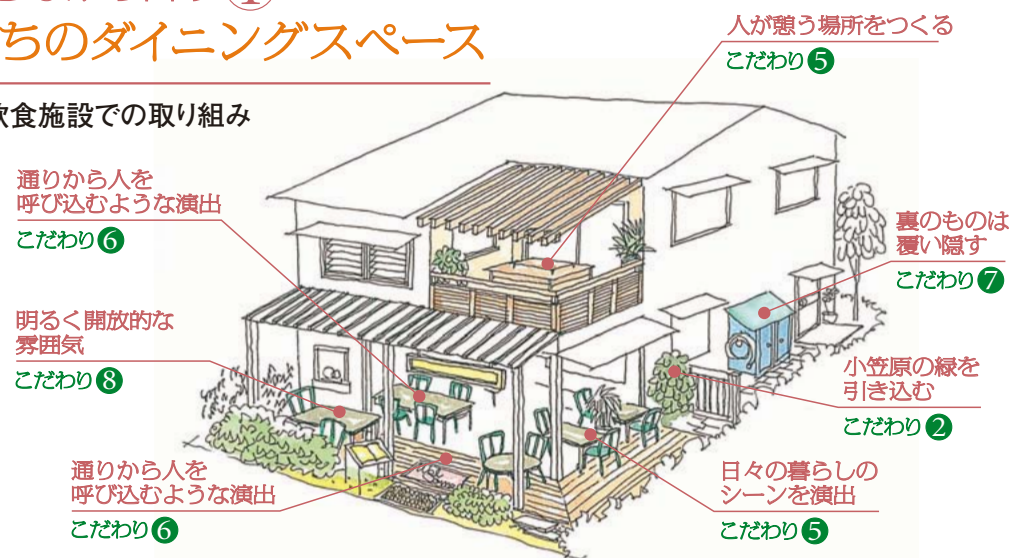
こだわり⑥





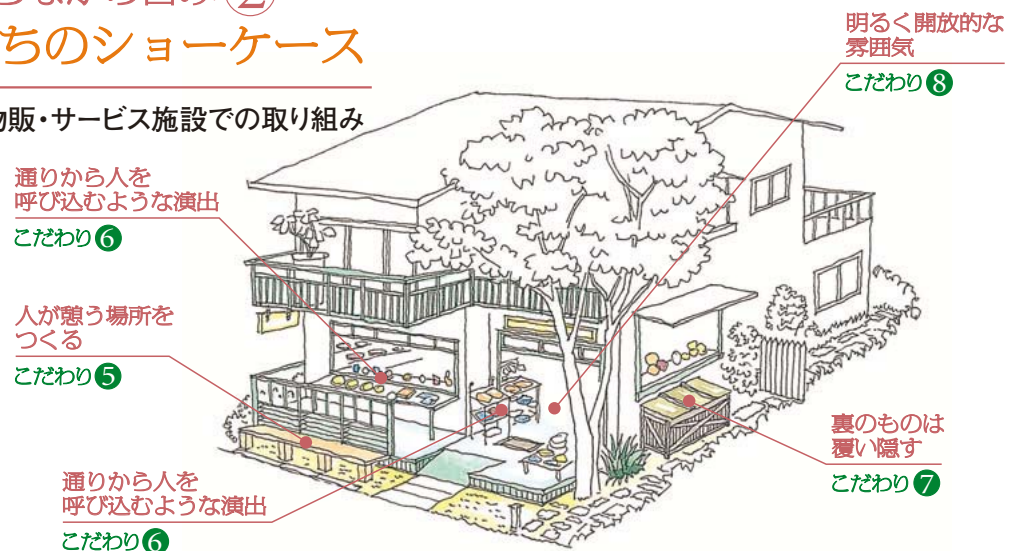
まちなかの営み① まちのダイニングスペース

●飲食施設での取り組み



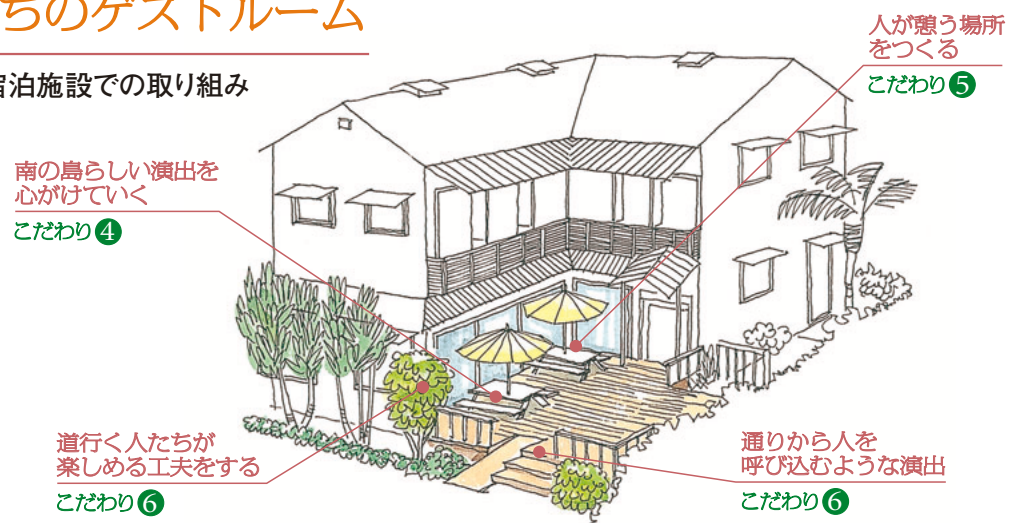
まちなかの営み② まちのショーケース

●物販・サービス施設での取り組み



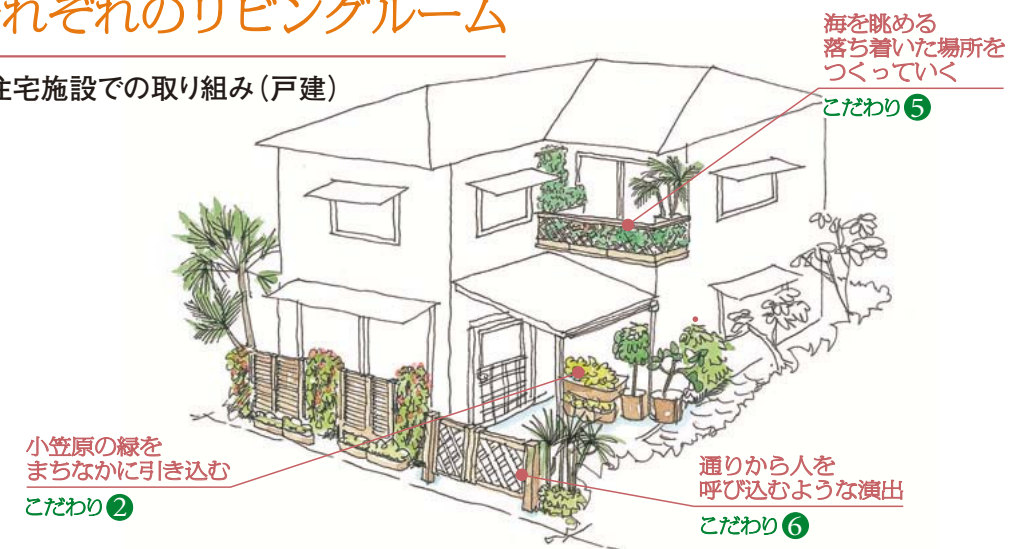
まちなかの営み③ まちのゲストルーム

●宿泊施設での取り組み



まちなかの営み④ それぞれのリビングルーム

●住宅施設での取り組み(戸建)



まちなかの営み⑤ それぞれのリビングルーム

●住宅施設での取り組み(共同住宅)

